

## 〈コラム〉

## My Kiwi Life

池田恵里香\*

Erika IKEDA\*

ニュージーランドへ留学をしてから早いこと五年が経とうとしています。順天堂大学スポーツ健康科学部スポーツ科学科を2010年に卒業したのち、私はニュージーランドの Auckland University of Technology (AUT) で修士を取得するために留学をしました。この留学の話をする時、毎回とっていいほど質問されるのが、「なぜニュージーランド?」です。私が留学を決めた時に、特にどこの国に行きたいかは決めていませんでした。興味を持っていた研究分野は「子供の身体運動の向上」であり、それをキーワードにこの分野の勉強できる大学院をアメリカとカナダを中心に調べ始めました。あるとき、私の知り合いからスポーツに関する分野であればオーストラリアやニュージーランドもあるよという助言から、四か国を視野に入れ始めました。最終的に絞った数校の大学院の中で、私が「ここで勉強や研究をしたい」と痛感させてくれたのが AUT に所属する Erica Hinckson 教授でした。Dr Hinckson とは研究

分野だけでなく、留学した際の生活に関する事まで数十回にわたるメールのやり取りを行いました。その後私がニュージーランドに語学留学をした際には、直接会って話をする機会もいただきました。そのような Dr Hinckson からの精神的な支えもあり、私はニュージーランドへの留学を決意しました。

AUT へ入学をしてからの半年間は無我夢中で勉強に励みました。一番記憶に残っている出来事は、入学して間もなく夜遅くまで大学に残って勉強していた私に友達が日本での地震について知らせに来てくれたことです。あの時ほど家族の安否状況が確認できず苛立ちが募ると共に、家族との距離の遠さを痛感したことはありませんでした。入学から一年後、一定の成績基準を通過し、Postgraduate Diploma から Master of Health Science の研究に入ることができました。一年間の研究経験は偉大なものでした。研究計画、データ収集そして論文作成に至るまで、楽しいかつ大変な日々が続きました。完成した修士論文を手にしたときは達成感とともに安堵感で



\* オークランド工科大学スポーツレクリエーション  
School of Sport and Recreation, Auckland University of  
Technology



胸がいっぱいになりました。修士を卒業後、研究アシスタントとして大学での研究プロジェクトにいくつか参加することができました。気が付くとビザの失効期限が迫り、進路について真剣に考え始めました—就職もしくは進学。初めは就職をすることを考えていました。なぜなら、進学には経済面上、奨学金を取得することが必要だったからです。そんな時、Neighbourhoods for Active Kids プロジェクトを通して Health Research Council の奨学金の機会を見つけることができました。「一か八か」申請をした結果、見事に奨学金を得て博士課程への進学が決ま

りました。現在、毎日大変な日々が続いてますが、自分のやりたいことをできることに本当に感謝しています。

私は「自分のやりたいことをやりたい」という決心のもとに留学をしました。その決意は今でも変わっていません。違う言語と文化に触れ、自分自身を今までに経験したことのない環境に置くことによって、自分の長所、短所、そして可能性を実感することができました。この機会をお借りして私をサポートしてくれた家族、友達そして大学の関係者の方々に深く感謝をしたいと思います。